

World Watching 280

ワールド・ウォッチング



池町 円

国土交通省港湾局
産業港湾課
国際企画室長
(前 クルーズ振興室長)

シートレード・クルーズ・グローバルでの 訪日クルーズプロモーション



カンファレンスでのクルーズ業界の 展望

3月28日午前には、世界のクルーズ産業の最新動向を大手クルーズ会社首脳から直接聞くことができるラウンドテーブル「The State of the Global Cruise Industry」が開催され、業界関係者の注目を集めていました。

CLIA（国際クルーズライン協会）の基調講演「クルーズ産業の現状2023」では、「新型コロナの世界的な流行の影響により大きな打撃を受けたクルーズ業界であったが、2023年においては、他の観光産業よりも早く回復しており、今年の年間利用者数は、コロナ前の2,970万人を上回る3,150万人（コロナ以前の2019年と比較して106%増）に達する見込みとなっている。これは、国際連合世界観光機関が2023年は2019年レベルの80%から90%と予測する国際観光客数全体の傾向と比べて大きな数字であり、クルーズ産業の回復力の高さを裏づけている」との見解が示されました。

また、新造船についても、「2023年は14隻の新造船が就航予定で、2028年までに44隻の建造が予定されている」との報告がなされ、コロナ後の世界のクルーズ産業の急回復を強く印象づける基調講演でした。



シートレード・クルーズ・グローバル 2023への日本ブース出展

日本は、クルーズ船の日本への寄港促進や寄港地におけるエクスクーショの拡充を図ることを目的に、日本政府観光局（以下、JNTO）と港湾管理者の共同出展により、日本ブースを



はじめに

2023年のシートレード・クルーズ・グローバルが、2023年3月28日（火）から30日（木）に、米国フロリダ州フォート・ローダデールで開催されました。国土交通省港湾局からは、政府代表として、筆者が参加いたしましたので、本稿ではその内容をご紹介します。



シートレード・クルーズ・グローバル とは

シートレード・クルーズ・グローバルとは、毎年開催される世界最大のクルーズ見本市で、欧米大手クルーズ船社のトップや幹部が一堂に集い、クルーズ産業の今後を展望するとともに、世界各国の多くの参加者が、クルーズ船誘致などのプロモーション活動を行う場として活用しています。今回は、コロナ禍を経て、今年のシートレード・クルーズ・グローバルが4年ぶりに大規模に開催されるとのことで、世界からクルーズ関係者約1万人が参加しました。



多くの参加者で賑わった 写真提供：JNTO

形成しました。日本のブース出展は、2019年以来4年ぶりになります。秋田、茨城、東京、横浜、清水、金沢、舞鶴、大阪、和歌山、広島、境港、高松、高知、佐世保、八代、那覇の16港から41名が参加し、日本のクルーズ寄港に関するPRを行うとともに、港湾管理者とクルーズ船社の個別商談会を実施しました。

日本ブースの展示は3月28日から3日間開催され、初日には、日本ブースのイベントとして、鏡割り及び太鼓パフォーマンスを実施し、日本酒が振る舞われたことも手伝って、多くの参加者にお集まりいただくことができました。鏡割りの前には、日本政府代表として私もスピーチさせていただき、日本においても2023年3月から国際クルーズの受入れが本格的に再開されたことについて説明するとともに、日本の多様な寄港地は、海外のクルーズ船社を待ち望んでいることを説明させていただきました。

海外クルーズ船社を日本ブースに招待して実施した寄港地との個別商談会には、ロイヤルカリビアンクルーズ、セレブリティクルーズ、シルバーシークルーズ、MSCクルーズ、アザマラといった日本でもおなじみの船社が参加するとともに、フッティルテン、シーボーンクルーズのような、今後、日本寄港が期待される船社にも参加いただきました。



鏡割りのパフォーマンス 写真提供：JNTO



日本ブース 写真提供：JNTO



日本からの参加者 写真提供：JNTO

各寄港地自治体は6分程度と短い持ち時間にもかかわらず、寄港地からアクセスできる定番の観光スポットや地域ならではの伝統文化・日本食の体験施設など、各寄港地の魅力を熱心にアピールしていました。

個別商談会を聞いていて強く感じたのは、日本の多様な寄港地に対する海外船社からの高い評価があることです。横浜・東京・神戸・大阪・金沢・那覇のようなクルーズ定番港だけではなく、日本海側の寄港地や瀬戸内海の寄港地にも関心が高く、「日本はデスティネーションとしてはアジアで一番。これまで寄港していない地方に行きたいので、ぜひおすすめを提案してほしい」との声をよく聞きました。

これは裏を返せば、まだまだ日本の寄港地の魅力についてのプロモーションが十分ではないということです。3年間のブランクを取り戻すためにも、今後は、さらに力を入れていく必要があると感じました。



おわりに

日本では、約3年ぶりに、本年3月1日から外国クルーズ船による国際クルーズの運航が再開されたこともあり、シートレード・クルーズ・グローバル2023での日本の注目度は非常に高く、とてもよいタイミングでの誘致活動ができたと考えています。

本年3月末には観光立国推進基本計画が閣議決定され、「クルーズ再興に向けた訪日クルーズ本格回復への取組」として、「多様化する訪日クルーズニーズに対応したプロモーションや海外の国際展示会への出展等、訪日クルーズ寄港促進の取組を進める」ことになっております。国土交通省港湾局は、引き続きJNTOとしっかりと連携し、日本の多様な寄港地の魅力を世界のアピールを続けていく予定です。